

2025年度 外国語科シラバス (No. 6)

教科	外国語科	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	3	学年	2
学科 ・ コース	普通科 特進コース、看護医療進学コース、英語コース						
教科書	CROWN English Communication II		副 教 材	・Next Stage 英文法・語法問題			
科目の概要	<p>英語コミュニケーションⅡとは、「聞くこと」「話すこと(やり取り、発表)」「読むこと」「書くこと」という4技能5領域の力を養う授業で、聞いたり読んだりしたことを基に情報を共有したり、考えを話したり書いたりする幅広い言語活動を行う。</p> <p>コミュニケーションのためのことばの知識・技能の習得に加え、豊かな文化観と適切な国際理解のための資質・能力を養うことを目標とする。</p> <p>また英語を学ぶことを通して多様化する社会の中で自らの力で考え、判断し、表現できる力と、多角的に物事を捉え、異なる価値観を受け入れる力を培う。</p>			評価の観点	<p>【知識・技能】 外国語の音声や語彙、文法の理解を深めるとともに、実際のコミュニケーションにおいて目的や場面により適切に活用できる技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 日常的・社会的な話題について、外国語で概要や要点、話し手の意図を理解したり、これらを活用し適切に表現できている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 背景にある文化に対する理解を深め、聞き手や読み手に配慮しながら、主体的かつ自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。</p>		
				評価方法	<p>学習内容に応じて上記の3つの評価の観点を適切に配分し評価する。</p> <p>・定期考査(計5回) ・小テスト(単語など) ・ライティング課題 ・プレゼンテーション ・授業への取り組み など</p>		
	<p>1 学期</p> <p>Leeson1 不定詞の意味上の主語・不定詞/動名詞の受け身</p> <p>Lesson2 動名詞の意味上の主語・不定詞の完了形</p> <p>Lesson3 分詞構文・強調構文</p> <p>2 学期</p> <p>Lesson4 関係副詞・不定詞+前置詞</p> <p>Leeson5 前置詞+関係代名詞・無生物主語</p> <p>Lesson6 助動詞 have 過去分詞・whether 節</p> <p>3 学期</p> <p>Lesson7 仮定法(if 省略の倒置を含む)</p> <p>Leeson8 be to 不定詞・結果を表す不定詞</p> <p>Leeson9 未来進行形・未来完了形・受け身の進行形</p>			学習方法	<p>適切なコミュニケーション力の養成のため、語彙(発音を含む)、文法、表現などのインプット作業を家庭学習として習慣づける。</p> <p>またそれらを別々に切り離して覚えるのではなく、学んだ単語と文法、表現を組み合わせ、文として発音するなど、常に英語をコミュニケーションのツールとして捉えるよう心掛けること。</p>		
			備考	<p>使用教材、授業進度については変更の可能性はある。</p>			

2025年度 外国語科シラバス (No. 7)

教科	外国語科	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	3	学年	2
学科 ・ コース	普通科 総合キャリアコース、スポーツコース、幼児教育コース、音楽コース 美術科 アート・イラスト・アニメーションコース						
教科書	MY WAY English Communication II	副 教 材	・大学入試英語頻出問題 総演習 (即戦ゼミ 11) ・Next Stage 英文法・語法問題 ※総合キャリアコース (文系特進) のみ				
科目 の 概 要	英語コミュニケーションⅡとは、「聞くこと」「話すこと(やり取り、発表)」「読むこと」「書くこと」という4技能5領域の力を養う授業で、聞いたり読んだりしたことを基に情報を共有したり、考えを話したり書いたりする幅広い言語活動を行う。 コミュニケーションのためのことばの知識・技能の習得に加え、豊かな文化観と適切な国際理解のための資質・能力を養うことを目標とする。 また英語を学ぶことを通して多様化する社会の中で自らの力で考え、判断し、表現できる力と、多角的に物事を捉え、異なる価値観を受け入れる力を培う。			評価 の 観 点	【知識・技能】 外国語の音声や語彙、文法の理解を深めるとともに、実際のコミュニケーションにおいて目的や場面により適切に活用できる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 社会的な話題やより高度なトピックについて、外国語で概要や要点、話し手の意図を理解したり、これらを活用し適切に表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 背景にある文化に対する理解を深め、聞き手や読み手に配慮しながら、主体的かつ自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。		
				評価 方 法	学習内容に応じて上記の3つの評価の観点を適切に配分し評価する。 ・定期考査 (計5回) ・小テスト (単語など) ・ライティング課題 ・プレゼンテーション ・授業への取り組み など		
	1 学期 L1 SVO / SVOO (O=that / what / if 節) L2 形式主語の it L3 現在完了(進行)形 / 過去完了(進行)形 2 学期 L4 知覚動詞 / 使役動詞 / help O V 原形 L5 関係代名詞 / 関係副詞 L6 助動詞+have+過去分詞 3 学期 L7 分詞構文 / 付帯状況 with L8 仮定法 / no matter+疑問詞 L9 同格の that / 強調構文 / 倒置 / 省略			学 習 方 法	適切なコミュニケーション力の養成のため、語彙(発音を含む)、文法、表現などのインプット作業を家庭学習として習慣づける。またそれらを別々に切り離して覚えるのではなく、学んだ単語と文法、表現を組み合わせ、文として発音するなど、常に英語をコミュニケーションのツールとして捉えるよう心掛けること。		
			備 考	使用教材、授業進度については変更の可能性はある。			

2025年度 外国語科シラバス (No. 8)

教科	外国語科	科目	論理・表現Ⅱ	単位数	3	学年	2
学科 ・ コース	普通科 特進コース、看護医療進学コース、英語コース						
教科書	・ EARTHRISE English Logic and Expression II Advanced		副 教 材	システム英単語<5訂版>			
科目の概要	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。 2単位で「読む、書く」に重点を置いたJT(Japanese Teacher)による授業を実施し、1単位でNET(Native English Teacher)とのティームティーチングによるオールイングリッシュの授業を実施する。			評価の観点	【知識・技能】 外国語の音声や語彙、文法の理解を深めるとともに、実際のコミュニケーションにおいて目的や場面により適切に活用できる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 日常的・社会的な話題について、外国語で概要や要点、話し手の意図を理解したり、これらを活用し適切に表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 背景にある文化に対する理解を深め、聞き手や読み手に配慮しながら、主体的かつ自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。		
				評価方法	学習内容に応じて上記の3つの評価の観点を適切に配分し評価する。 ・定期考査(計5回) ・小テスト ・プレゼンテーション ・ライティング課題 ・授業への取り組み など		
授業内容	1学期 (JT)リスニング・長文読解(情報抜き取り) (NET)Lesson1~3(日本文化を紹介する・環境問題について議論する) 2学期 (JT)リスニング・長文読解(情報抜き取り) (NET)Lesson4~6(最近の出来事について話す・好きな映画や音楽を紹介する) 3学期 (JT)リスニング・長文読解(情報抜き取り) (NET)Lesson7,8(好きな本を紹介する、世界を変える発明を考える)			学習方法	適切な表現力の養成のため、語彙(発音を含む)、文法、表現などのインプット作業を家庭学習として習慣づける。		
	備考	使用教材、授業進度については変更の可能性はある。					

2025年度 外国語科シラバス (No. 9)

教科	外国語科	科目	論理・表現Ⅱ	単位数	3	学年	2
学科 ・ コース	普通科 総合キャリアコース、スポーツコース、幼児教育コース、音楽コース 美術科 アート・イラスト・アニメーションコース						
教科書	・MY WAY Logic and Expression II		副 教 材	・MY WAYⅡ Logic and ExpressionⅡ Workbook ・DataBase3300 ・Orange book (独自教材)			
科目 の 概 要	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。 2単位で「読む、書く」に重点を置いたJT(Japanese Teacher)による授業を実施し、1単位でNET(Native English Teacher)とのティームティーチングによるオールイングリッシュの授業を実施する。			評価 の 観 点	<p>【知識・技能】</p> <p>外国語の音声や語彙、文法の理解を深めるとともに、実際のコミュニケーションにおいて目的や場面により適切に活用できる技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>日常的・社会的な話題について、外国語で概要や要点、話し手の意図を理解したり、これらを活用し適切に表現できている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>背景にある文化に対する理解を深め、聞き手や読み手に配慮しながら、主体的かつ自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。</p>		
				評価 方 法	<p>学習内容に応じて上記の3つの評価の観点を適切に配分し評価する。</p> <p>・定期考査(計5回) ・小テスト ・プレゼンテーション ・ライティング課題 ・授業への取り組み など</p>		
	<p>1学期 (JT)Lesson1~3 時制・助動詞・受動態 (NET) Unit1~5(自己紹介、道案内など)</p> <p>2学期 (JT)Lesson4~6 不定詞・動名詞・比較 (NET) Unit6~10(電話での会話、形や材質、体調の説明など)</p> <p>3学期 (JT)Lesson7・8 関係詞・仮定法 (NET) Unit 1 1-1 4 (レストランでの注文、海外旅行など)</p>			学 習 方 法	<p>適切な表現力の養成のため、語彙(発音を含む)、文法、表現などのインプット作業を家庭学習として習慣づける。</p>		
			備 考	<p>使用教材、授業進度については変更の可能性はある。</p>			

2025年度 外国語科シラバス (No. 10)

教科	外国語科	科目	(学) 英語演習	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 英語コース、総合キャリアコース (文系特進)						
教科書	なし		副 教 材	DUALSCOPE English Grammar in 36 Stages			
科目 の 概 要	入試対策 (文法・長文・リスニング) に特化した演習型の授業形態とする。			評価の観点	<p>【 知識・技能 】 外国語の音声や語彙、文法の理解を深めるとともに、実際のコミュニケーションにおいて目的や場面により適切に活用できる技能を身に付けている。</p> <p>【 思考・判断・表現 】 日常的・社会的な話題について、外国語で概要や要点、話し手の意図を理解したり、これらを活用し適切に表現できている。</p> <p>【 主体的に学習に取り組む態度 】 背景にある文化に対する理解を深め、聞き手や読み手に配慮しながら、主体的かつ自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。</p>		
				評価方法	<p>学習内容に応じて上記の3つの評価の観点を適切に配分し評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 (計5回) ・小テスト ・プレゼンテーション ・ライティング課題 ・授業への取り組み など 		
				学習方法	<p>適切な表現力の養成のため、語彙(発音を含む)、文法、表現などのインプット作業を家庭学習として習慣づける。</p>		
授業内容	<p>1 学期 Lesson1～13 (文の種類、文の組み立て、時制、助動詞、態)</p> <p>2 学期 Lesson14～25 (不定詞、動名詞、分詞、比較)</p> <p>3 学期 Lesson26～36 (関係詞、仮定法、話法、否定、強調・倒置・省略、無生物主語・名詞中心の表現)</p>			備考	<p>使用教材、授業進度については変更の可能性はある。</p>		

2025年度 外国語科シラバス (No. 11)

教科	外国語科	科目	(学) 英会話	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 英語コース						
教科書	なし		副教材	Berlitz 準拠テキスト(Time Zones 2, Going Abroad) プリント教材等			
科目の概要	<p>1 単位を Berlitz、1 単位を本学園ネイティブ教員との TT で実施する。</p> <p>英語を「ことば」として捉え、コミュニケーションのためのことばの知識・技能の習得に特化した授業を展開する。</p> <p>様々な場面を想定した会話や、幅広いトピックについてのプレゼンテーションに触れる機会を多く設け、実用的な語学力の育成を目標とする。</p>			評価の観点	<p>【 知識・技能 】 外国語の音声や語彙、文法の理解を深めるとともに、実際のコミュニケーションにおいて目的や場面により適切に活用できる技能を身に付けている。</p> <p>【 思考・判断・表現 】 日常的・社会的な話題について、外国語で概要や要点、話し手の意図を理解したり、これらを活用し適切に表現できている。</p> <p>【 主体的に学習に取り組む態度 】 背景にある文化に対する理解を深め、聞き手や読み手に配慮しながら、主体的かつ自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。</p>		
				評価方法	<p>定期考査は行わず、授業内の取り組みで評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスニング ・プレゼンテーション ・ペアワーク、グループワーク ・小テストなど 		
	<p>授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Presentation ・ Speech Hobbies Physical appearance Extreme places on Earth Numbers in words Music genres Daily routines Studying Abroad 			学習方法	<p>授業の予習、復習、グループワークやプレゼンテーションの準備。</p>		
			備考	<p>使用教材、授業進度等については変更の可能性はある。</p>			